

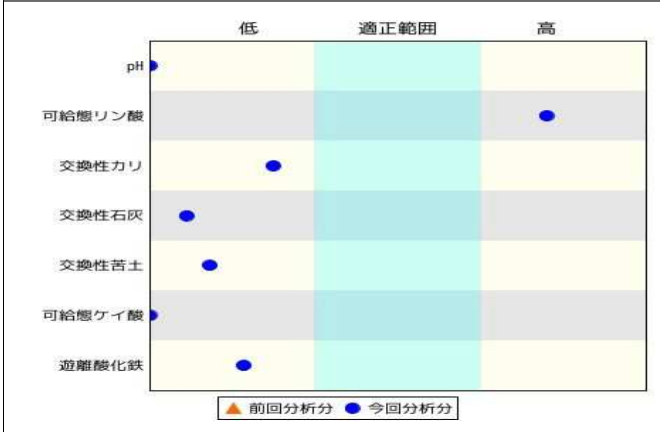
若畑上農家組合 様

依頼先	広域土壌分析センター岩手	所属	JA	JAいわて花巻	受付日	2023/02/17
サンプルNo	7538				支店	西和賀地域営農グループ

■ 詳細情報

圃場	1	面積	10a	採土場所	若畑	採土日	
作物	イネ	品種		栽培様式	作型	土性	
土壌種類	非火山灰土壌	採土時期		作土深	農家コード		

■ 分析結果グラフ



■ 分析所見

- ・pHが低くなっています。
- ・可給態リン酸が富化しています。リン酸肥料は削減または無施用が可能です。
- ・交換性加里が不足しています。土壌改良を行い、加里肥料は標準量(従来型)を施用します。
- ・交換性石灰が不足しています。土壌改良が必要です。
- ・交換性苦土が不足しています。土壌改良が必要です。
- ・可給態ケイ酸が不足しています。土壌改良が必要です。このほか補給型施肥としてケイ酸を成分量として30kg/10a程度施用しましょう。
- ・遊離酸化鉄が不足しています。含鉄資材の施用が必要です。
- ・石灰苦土比が低くなっています(2.9)。バランスに注意しましょう。
- ・苦土加里比が低くなっています(1.7)。バランスに注意しましょう。

■ 分析結果

分析項目	単位	分析値	目標値	適正範囲	前回値
pH	-	4.9▼低い		5.5~6.0	
EC	mS/cm	0.02			
可給態リン酸	mg/100g	38.0▲高い		10.0~30.0	
交換性カリ	mg/100g	15.0▼低い		20.0~40.0	
交換性石灰	mg/100g	45.0▼低い		200.0~400.0	
交換性苦土	mg/100g	11.0▼低い		30.0~60.0	
可給態ケイ酸	mg/100g	4▼低い		15.0~25.0	
遊離酸化鉄	%	0.5▼低い		0.8~1.5	
石灰飽和度		*			
苦土飽和度		*			

分析項目	単位	分析値	目標値	適正範囲	前回値
加里飽和度		*			
塩基飽和度		*			
Ca/Mg 比		2.9			
Mg/K 比		1.7			

■ 土づくり肥料 目安施肥量

	リン酸	石灰	苦土	加里	ケイ酸	鉄
10aあたり(kg)	0.0	155.	19.0	5.0	11.0	

■ 特記事項

- ・作土深は10.00cmで計算しています。
- ・仮比重は1.00で計算しています。
- ・土壌図(農研機構:日本土壌インベントリ土壌図、<<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>>)から土壌の種類を推定できます。
- ・資材量が300kg/10aを超えるときは、数年かけて計画的に改良しましょう。
- ・分析値が有効態ケイ酸50mg / 100gを超える場合には50mg / 100g、遊離酸化鉄6%を超える場合には6%と表示されます。(分析値上限のため)

■ 土づくり肥料と投入量 圃場あたり(kg)

肥料銘柄	重量	リン酸	石灰	苦土	加里	ケイ酸	鉄
タンカル(粉状)	240	0.0	127.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ニューエコマグ	34	0.0	0.2	18.7	0.0	0.0	0.0
塩化加里	8	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
シリカ未来	60	1.0	24.7	1.2	0.0	12.0	8.4
合計		1.0	152.	19.9	4.8	12.0	8.4
過不足		1.0	-2.9	0.9	-0.2	1.0	

■ コメント

- 可給態リン酸が高いことから、この成分を含む肥料と思われる過剰施用の傾向が見られます。
- 左の表は、不足分を補う(土壌改良分)土づくり資材です。(元肥に追加、今回限り)
- タンカルは、粗粒200kgフレコンと粉状20kg袋の組合せがお得です。
- なお、ケイ酸は、毎年元肥として(補給型施肥分:ケイ酸成分30kg程度/10a)必要ですので、鉄分の補給も出来る「シリカ未来」を選択する場合、60kg/10a程度を施用しましょう。(左の表は、上記元肥への追加分です)
- 定期的に土壌診断を実施し、過不足している成分がないか確認しましょう。

■ 土づくり肥料

タンカル(粉状)	ニューエコマグ	塩化加里	シリカ未来

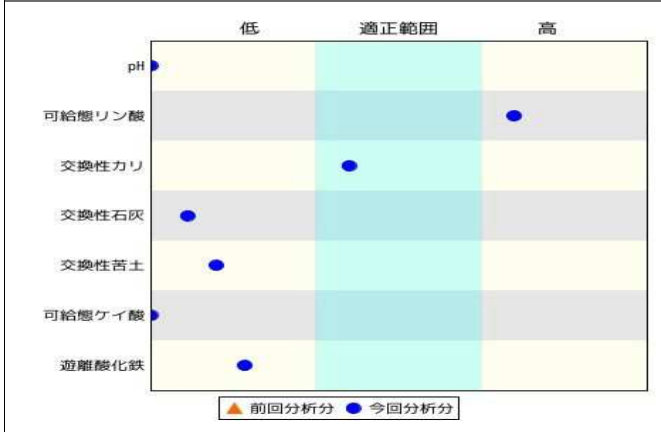
若畑上農家組合 様

依頼先	広域土壌分析センター岩手	所属	JA	JAいわて花巻	受付日	2023/02/17
サンプルNo	7539				支店	西和賀地域営農グループ

■ 詳細情報

圃場	2	面積	10a	採土場所	若畑	採土日	
作物	イネ	品種		栽培様式	作型	土性	
土壌種類	非火山灰土壌	採土時期		作土深	農家コード		

■ 分析結果グラフ



■ 分析所見

- ・pHが低くなっています。
- ・可給態リン酸が富化しています。リン酸肥料は削減または無施用が可能です。
- ・交換性加里は適正です。加里肥料は標準量(補給型)を施用します。
- ・交換性石灰が不足しています。土壌改良が必要です。
- ・交換性苦土が不足しています。土壌改良が必要です。
- ・可給態ケイ酸が不足しています。土壌改良が必要です。このほか補給型施肥としてケイ酸を成分量として30kg/10a程度施用しましょう。
- ・遊離酸化鉄が不足しています。含鉄資材の施用が必要です。
- ・石灰苦土比が低くなっています(2.7)。バランスに注意しましょう。
- ・苦土加里比が低くなっています(1.2)。バランスに注意しましょう。

■ 分析結果

分析項目	単位	分析値	目標値	適正範囲	前回値
pH	-	4.9 ▼低い		5.5~6.0	
EC	mS/cm	0.02			
可給態リン酸	mg/100g	34.0 △やや高い		10.0~30.0	
交換性カリ	mg/100g	24.0		20.0~40.0	
交換性石灰	mg/100g	45.0 ▼低い		200.0~400.0	
交換性苦土	mg/100g	12.0 ▼低い		30.0~60.0	
可給態ケイ酸	mg/100g	4 ▼低い		15.0~25.0	
遊離酸化鉄	%	0.5 ▼低い		0.8~1.5	
石灰飽和度		*			
苦土飽和度		*			

分析項目	単位	分析値	目標値	適正範囲	前回値
加里飽和度		*			
塩基飽和度		*			
Ca/Mg 比		2.7			
Mg/K 比		1.2			

■ 土づくり肥料 目安施肥量

	リン酸	石灰	苦土	加里	ケイ酸	鉄
10aあたり(kg)	0.0	155.	18.0	0.0	11.0	

■ 特記事項

- ・作土深は10.00cmで計算しています。
- ・仮比重は1.00で計算しています。
- ・土壌図(農研機構:日本土壌インベントリー土壌図、<<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>>)から土壌の種類を推定できます。
- ・資材量が300kg/10aを超えるときは、数年かけて計画的に改良しましょう。
- ・分析値が有効態ケイ酸50mg / 100gを超える場合には50mg / 100g、遊離酸化鉄6%を超える場合には6%と表示されます。(分析値上限のため)

■ 土づくり肥料と投入量 圃場あたり(kg)

肥料銘柄	重量	リン酸	石灰	苦土	加里	ケイ酸	鉄
タンカル(粒状)	260	0.0	130.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ニューエコマグ	30	0.0	0.2	16.5	0.0	0.0	0.0
シリカ未来	60	1.0	24.7	1.2	0.0	12.0	8.4
合計		1.0	154.	17.7	0.0	12.0	8.4
過不足		1.0	-0.1	-0.3	0.0	1.0	

■ コメント

- 可給態リン酸がやや高いことから、この成分を含む肥料と思われる過剰施用の傾向が見られます。
- 左の表は、不足分を補う(土壌改良分)土づくり資材です。(元肥に追加、今回限り)
- タンカルは、粗粒200kgフレコンと粉状20kg袋の組合せがお得です。
- なお、ケイ酸は、毎年元肥として(補給型施肥分:ケイ酸成分30kg程度/10a)必要ですので、鉄分の補給も出来る「シリカ未来」を選択する場合、60kg/10a程度を施用しましょう。(左の表は、上記元肥への追加分です)
- 定期的に土壌診断を実施し、過不足している成分がないか確認しましょう。

■ 土づくり肥料

タンカル(粒状)	ニューエコマグ	シリカ未来